

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成30(2018)年
7月号
通巻575号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成30年7月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)44-0015
★印刷 大倭印刷^監
★定価 1部 250円
年間購読料3,000円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



ゲンノショウコ 奈良市 井手 泉さん撮影 (文・8頁)

平成6(1994)年4月30日 エミサリーの皆さんとの座談より

続・互いに通じるものを感じて (3)

於：大本宮拜殿

法主 矢追日聖 (満82歳)

【参加者】(発言から推測して)

石垣雅設

石垣清水

マーシャ・ボゴリン*

ユージン・パク*

ユージンの母

パトリシア・タシロ

五百木邑子

山端法玄

ジル・シチュアリー

金靄子

李章根

通訳・上野幸夫、

*印の方が英語での発言

日本から世界に 伝えられること

マーシャ* 去年、邑子さんが倒れて声が出なくなりました。その頃、邑子さんと一緒に坐った時、邑子さんの身体の状態というのはガチガチになっていて、ちょうどその頃の日本の状態と同じじゃないかと感じた。あちこちコンクリートで固められてガチガチになっている。

邑子さんの身体の中にあるスピリット、霊の力も残っていて、一つのプロジェクトとしてガンが必要であったのかもしれない。それと同じことで日本に住んでいる人のスピリットが非常に強くあれば、必ず美しいものを日本全体に隈なく復興させることができるのではないか。世界中でもそういうことはあちこちで起きていると思う。

邑子さんの例はとても貴重なものだと思う。命というのは、決して叩きつぶしてしまえるようなものではないということを実証しているのでしょう。特に今は、一人ひとりがそういうことを分かっているなければならない浄化の時代だと思う。

ユージン* 真理というのが言葉としてあっても、それを生きて示すことは重要だと思う。最近、邑子さんのことを見ていると、自分の身体の中に起こっていることは単に自分の中だけに起こっているのではなくて、他の人の身体の中に起こっていることも共有している。自分の中で勝利したことが単に自分の中の勝利でなく、他の人にも同じことが起こっているのだと思う。

邑子 私らの身体が、みんなから送られてくる愛情の気で包まれているような感じがしたんです。それはもう距離は関係ない。

ユージン* 人のことを考える、それだけでその人に直接影響を与えることができる。すごい力……。邑子 逆に、気をつけなければいけないところもある。

石垣 想念が反対の場合に、怖いってことですね。ユージン* 矢追日聖さんとロジャーさんが、まるで兄弟のように感じます。

石垣 ロジャーさんは、サンライズ(アメリカ・コロラド州にあるエミサリーの共同体)のアチューンメント(波調合わせ)のリーダーのような方です。

ユージン* ロジャーさんが言っていたことだけ……。何か仕事をしたりして、誰かのことが心に浮かんでくる時というのは、たいしてその人も自分のことを思っている時だから、必ずそのことに耳を澄まして、その人に答を送らなくてはならない、と。

石垣 僕らがエミサリーに行った時、マーシャさ

んから「相互の扶助」「心身の健康」「地下水の精神」という紫陽花邑の三つ信条がロジャーさんに伝わっていたんですね。ロジャーさんと共同体のことを話し始めるとすぐに、その中で「地下水の精神」ということが一番大事だと言ったんです。

マーシャさんに僕は直接話していない。多分ユージンとか他の人を經由して伝わったんだと思うけど、それをマーシャは正確にきちっと理解したようなんですね。「ははあっ」と思いました。邑子 それで石垣さんがマーシャを日本に呼びたいと言っているという手紙を出したんですが、最初彼女は冗談だと思ったようです。

石垣 日本というのは間違ったこともたくさんありますけど、今の時代に、日本から世界に伝えられることもたくさんあるだろうと僕は思うんですね。マーシャだったら、言葉の表面だけでなく底に流れているものまで含めて伝えてくれるんじゃないかという直観があったんです。

邑子 マーシャさんは、エミサリーの誰でもよかつただろうに何故私だったんでしょうと書かれていますね。(※野草社刊『自然生活』第8集「優しさの力」)

石垣 マーシャさんが最初日本に来た1カ月間のことを、スポンジが水を吸うようにして吸収するというように、邑子さんが表現したんですね。

(※同第5・7集「日本の印象その一・その二」)
邑子 私は疲れるとエミサリーに行くと、何も考えないでボーッと気持ちよく浸らせて頂いているんですが、彼女とは以心伝心で伝わるのが一杯あるんです。

石垣 私も東京で野草社を始めた頃、新幹線に乗ってよく大塚に来ました。法主さんの顔を見ればそれでいいんですね。またこの拝殿の建物はなくして齋庭の前に立つと、足元から気持ちいい霊気と

いうかエネルギーを頂いて、ありがとうございまして帰るんです。

それが京都から電話して、「法主さんが倒れて(入院中で)、来て居ても居てはらへんよ」って聞いた時に初めて、ああそうか法主さんもやっぱり人間で、いつかはこの世と肉体から離れなくてはならないんだということが、リアリティとして分かった。ひたすら矢追日聖さんに頼っている自分の気持というのが見えて、それでは本当のものにはなれないと、自分自身がきちっと立たなくてはならないんだなあと思いました。

もう14、15年前かな。(※法主様、55歳当時)

法主 明日は田植えしようを用意しておいて、朝起きたらおかしかつたんや。体が弱いくせにちょっと重労働しすぎてんな。それからは重労働はせんようになった。やっぱり限界があるわ。霊界の方からは気を付けよと言われてるのに、あまりにも肉体とか健康のことを考えなかった。

世界を照らす灯台

マーシャ* 邑子さんが、サンライズのことを灯台と呼んでいる。石垣さんにとって灯台が大塚で、今は皆にとっても灯台の一つです。灯台の数が増えてくれば、世界中を照らすわけですから、太陽になります。

ユージン* マーシャは非常に物事をキチンと準備しておく態度があって、一方でそれに気付くだけの石垣さんの感性があったということですね。全て神様が仕組んでおいたものではない。だとしたら、我々がそれを注意深く耳をそばだてていなければ気付けないで終わってしまう。

石垣 こちらはジル・シチュアリーさん。今、滋賀県の中学校で英語を教えているらしいんですよ

が、今回はセミナーの通訳に入ってもらいます。22歳だそうです。日本語はどこで勉強したんですか？

ジル 始めはアメリカで。そして2年前に神戸へ来て、甲南大学で勉強しました。

法主 こんなに日本語で言えるというのは、かなり努力しはったんやな。方言なんか分かりますか？

ジル 少しだけ。「おおきに」とか。(笑)

邑子 漢字も読める。

ユージン* ジルさんはサンライズのランチに何度も行ったことがある。彼女の友人がペギー・セラさんの息子で、小さい時から、夏になるとサンライズに来ていた。

ペギー・セラさんは昨年、シカゴで行われた世界宗教者会議で進行役を務められたんです。(※大倭にも来られた。法主さんの帰幽後、メッセージを寄せられた方の一人)

法主 世界宗教者会議というようなのは難しいやろと思うね。みんな自分の団体に責任を持っていたら、政府の代表と一緒や。なかなか話がうまくいかんわな。

ユージン* やはり、いろいろ難しいこともあったそうです。

邑子 5年前にワシントンDCで開かれた宗教者の平和と環境の会議に、日本からオプザーバーとして私だけ出席したんですけど、違和感なく気持ちよくすすみましたよ。

石垣 そういう場所へは、組織エゴの強い人は出て来てなかったんやね。

法主さん、法主さんはヨーロッパとか世界のあちこちで、いろんな人に坐禅を教えていらっしやるんです。ついこの間までスペイン、ポルトガルの方へずいぶん長いこと行っておられた。

法主 そうですか。言葉なんかどうしてますか。

法玄 向こうの人が通訳してくれて。

法主 禅の言葉の通訳は難しいやろね。

法玄 私も全く知らないんですが、まあ出てくるものを伝えるだけで。

法主 坐禅なんかやっている、肉体の中から自律神経の運動が出てきませんか。

法玄 まだそこまでいかないのかもしれないが、あんまり。

法主 大体、精神統一してくと出てきますわね。そんなのが出てくると、日本の新興宗教でも神さんが下がってきたとか、使命があるんやとか言うてね、ややこしい道に入っていく若い人がよくありますよ、近頃。

それはね、人間の心がほんまに統一してくと、自分の意志以外のところで自然に、肉体にいろんな運動が出てきます。私に言わしたら神経運動なんですけど、それで案外病気が治ります。

ところが今の時代、おかしな宗教に入っていると、やれ神さんの力だのオーラが出てきたのと言う人があるんです。ここへ来る若い女の子に、自分は誰の生まれ変わりやとよく聞かれたりね。自称やけど、お釈迦さんの生まれ変わりや、キリストの生まれ変わりやという人もおられます。

法玄 そういう方向は、ある危険を伴うと思うんですね。だから、そちらに行かせないようにします。

法主 それは、指導する者が大事ですね。

マーシャ* サンライズの共同体の中で結婚式があった時、法主さんの本の言葉が読み上げられたんです。昼食を食べる時には、ただ昼食を食べなさい。それではなければあなたはこの世に生きていない、と。要するにその言葉が、結婚することの霊的な意義深さを表現しようとしているというん

です。(※通訳の上野さんによると、エミサリーの創始者・ユランダの言葉の中に「何かをしている時、人はただ一つのスピリットしか喜ばすことはできない」というのがある。どんな行動も全身全霊で行うものでなければやっていることにならないというような意味で、マーシャは、法主さんの言葉の中にエミサリーの原則と同じものを感じていたのだと思われまます、と)

石垣 法主さんの英訳の本が出ています。

法主 それは禅とか坐禅の本ですか。

法玄 禅のことやら、いろいろな心にかかったことをまとめたものです。ほとんど忘れていたんですが、向こうが覚えていて下さったようです。

地下水の如く清く流れ、 紫陽花の如く美しく咲け

法主 私はあまり物を考えない方ですね。例えば、ここで光明皇后が出て来はって、「地下水の精神」を言われた時のことですが……。

最初に出て来た時は、光明皇后は仏教を信仰している人でしょ、蓮の花やったら話は分かるんやけど、紫陽花の花を持ってました。私はだいたい頭が巻いてる方だからね、おかしいな、もしかしたら自分の意思も入ってるのかも思ったんや。紫陽花の花を示して、言葉で「地下水の如く清く流れよ」、そして「紫陽花の花の如く美しく咲け」と言われるんです。何のことか意味が分からなかったんです。

それから、「宗教でいけ」というように言われるんですけど、仏教のことかと思って私は嫌でした。既成宗教の姿を見ているからね。好かんとは思ったものの、何したらええんやと聞いたたら、「大阪の街頭に行つて、日本人の心の方向を示し

に行け」と言われる。結局、社会福祉のことを言われるんや。昭和22、23年頃の、大阪は焼け野原から復興してない時です。

しょうがないから大阪へ行って梅田の駅前に立った。経験のないことやし、どない言うたらええのやらと思つたら、勝手に言葉が出てくる。訳の分からんことしゃべつとったんやな。外地から帰ってくる兵隊が、気の毒に腐つたような毛布を背たろつて、「日本は負けたのに、今どき何言うとんねん。このドキチガイめ」とか罵倒したりね。

そうしておる内に、親のおらん子供や外地から引き揚げてきて帰る家がない人とかが、助けて下さいと寄つてきました。ところが、私とこは山の中で牛のケツ叩いて百姓してて、食べ物も満足にない時ですがな。どないしようと思つておる時に、「連れて帰れ」という光明皇后さんの声が聞こえる。しょうがないから連れて帰つたんです。

日曜、日曜に出て行きました。天王寺の辺りに行くと、孤児がようけおりますね。連れて帰つて一人増え、二人増えして、考えてないのに自然に紫陽花の花の形になりました。小さい花が集つて、一つの丸いマリになるんですね。そこで初めて、ああこれと言わはつたんやなと分かつてん。光明皇后さんも意地の悪い人や。(笑)

「連れて帰れ」と言われても、私にしたら一人増えたら、食う物がないねんから、またみんなの喉しめになるなあとという人間心が出ますねん。

そしてまたその時に言われたのが、「来る者は拒まず、去る者は追わず」ということです。中には去っていく者もいます。ええ具合に、困つた時には人が減りますねん。入つては出ていき、そんな銭湯みたいな状態が10年続きました。

終戦直後から10年経つた時に、奈良県の社会福祉協議会から、「こんなことしてたら経済的に

自滅する日がきますよ」と言うてきた。その頃、小学校に行かせている子供だけで20数人おつたんです。私自身の子供も一緒に生活させて、その中に4人おつたの。

紫陽花邑の福祉施設のこと

法主 それで昭和30年に行政の施設を始めました。子供がたくさんおつたから児童施設かと思つていたんやけど、救護施設(※生活保護法による)をやつてほしいと言われました。奈良県になかつたんやな。最初は定員30人で作つたところ、連れてきたのは墓地で寝起きしてる人とか、乞食してるような人ばかりやつた。

それから次は昭和38年に老人福祉法が出来て、特別養護老人ホームを作つてくれないかと言つてきたけれども、金がないから断つたんですよ。そうしたらまた、それ以前に、奈良県がうちからちよつと離れた所に施設(※今でいう知的障害のある児童のための登美学園)を作る時に私の土地を2000坪余り寄付したことがあつたんです。その土地を県の方で買取することにするとお金を持つてきたんですよ。それで特別養護老人ホームを作つたんは、奈良県が一番早かつたと思ひます。

息子が来たかて分からへん痴呆のきついなとか、大小便垂れ流しの人とか、とにかく一番重度な年寄りを連れてくるんですよ。それでも、そういう世話をしてくれる寮母さんや、うちには集まつてきてくれてね。皆、ようやくしてくれました。けどその給料は、私が出さなくてもいい。



行政が出してくれるんやから、けつこうでした。また今度は、重度心身障害者の施設を作りたいと言つてきたんですが、もう行き詰まつてたし、駄目やと断りました。それなら県が土地を買つて建物を建てるから、うちの社会福祉法人で運営してもらつたらよろしいと、そんなことになつてん。だから県立民営です。(※現在は民立民営)

その時にはね、福祉の施設はええもんやなと思ひました。家から出て行つてしても、青年団・消防団のお世話になつて山狩りしてもらつたというような家族もおりました。今まで、そういうような程度の人達に該当する施設がなかつたんです。(※近畿で最初に出来た施設だったから)他府県からも来てます。

万が一、県が何億と金を出して建ててくれた施設に、お前は該当しないと私が断つた場合に一家心中なんかが起こつたとしたら、誰の責任になるんやというようなことも考えて迷いましたよ。法の基準で職員の数を決められてるし、重度の人でも世話しますと職員さんが受け入れてくれなければできないんです。園長やけど、私が世話するわけやない。始めの間は慣れないこともあつて、それはもう難儀すること多かつた。手を離されへん者を寮母さんが自分の腰に紐でくくつて、他の者の世話もするよなことしてますねん。人にかぶりつきにいたり、物をこわしたりする者もあるしでね。

一番重度な成人施設ばかりですが、私はそれが宗教やと思つてます。ご利益下さいなんて言うて寄つてくるようなのは宗教の世界と違ふ。病氣治して下さいというなら医療の世界や。(続く) 文責・編集部

足あと
足あと

「大倭滝の峯荘」と私

社会福祉法人 軽費老人ホーム「大倭滝の峯荘」

主任生活相談員

矢 追 法 亮

私は現在、軽費老人ホーム「大倭滝の峯荘」で生活相談員という立場で働かせて頂いている。資格がなくても生活相談員にはなれるが社会福祉士の国家資格を有している仲間が多い。社会福祉士は別名ソーシャルワーカーと呼ばれることもある。ソーシャルワーカーの説明はとも複雑になるが、自分なりにわかりやすく説明すると、社会で何かしら生きにくさを抱える人、生活課題がある人の話を傾け、その課題の原因を分析し、緩和・解決を助ける福祉制度や専門職、機関や施設を紹介したりそれらを組み合わせて支援チームを提案したりということをしている。

私の職場である軽費老人ホーム「大倭滝の峯荘」は奈良市千代ヶ丘にあるが、現在は千代ヶ丘でも昔はこの地を「滝の峯」といったらしい。「藤の木」といわれている村落より真北へ上る山道があり、これを越す頂上のすぐ下に小さな滝があった。その滝の上(頂上)ということでごくから「滝の峯」と呼ばれたそうである。

法主さんが書いておられる過去の記事を読みかえしてみると、奈良と大阪を結ぶ阪奈道路が開通した頃、この「滝の峯」の地はまだ狐の飛び廻っているような深い山林であったとある。その後、大和団地株式会社が宅地造成をはじめ、世の中は神武景気、岩戸景気といわれ、高度経済成長の最盛期。家庭の電化は進み、ネオポリスの呼称のもと都市を中心に郊外住宅化が進み、物質万能の世の中で大衆は日夜働き、土地は高く売れ、就職の心配などない世の中であったが、同時に繁栄の陰で社会的弱者とよばれる人々が生まれ、特に資力

権力を失った高齢者たちにとって、家族制度の崩壊により居場所がなくなるといった問題が浮きぼりになりはじめた時代でもあった。

時代の移り変わりとはいえず、この地は『古事記』にも記されている伝承地の多い所であり、平城京の御造営にも参与した。山と田甫が続ぎ、その頂上からは奈良の山並みがみられ、風景のいい所である。こんな所へ老人ホームが建てられ高齢者が奈良の若草山から出る朝日を眺め、西の生駒山へ沈む夕日を見てのんびり過ごせたらいいなあと思うようになったとある。その古くから土地になじみある「滝の峯」という地名が消えつつある時、その地名を長く残したい、先祖の心を残したいと考え、法主さんとその弟である私の祖父(隆義)が、たくさんの方々のお力添えのもと福祉施設を建設し、法人の名前は「大倭滝の峯荘」とした。

昭和46年5月10日開所。奈良県で最初の軽費老人ホームであると小さい頃に祖父から教えてもらった。今年で施設は47年目を迎える。利用して下さる方々の姿も時代とともに変化している。

老人福祉法が根拠法である軽費老人ホームであるが周囲からは介護保険施設ですかなどと問われることがあることも多い。地域自治会では高齢化率が40パーセントと聞く。滝の峯荘でも平均年齢が84歳までであった。暮らしておられる7割の方々は介護保険を利用している。精神疾患をお持ちの方々からの相談も多い。日本では、皆様もご存知のとおり障害者に対し収容政策をとり、多くの障害者が閉じ込められてきた歴史がある。2004年にוצされた精神保健医療福祉の改革ビジョン以

降、脱施設化、地域移行が叫ばれるなかにおいて、軽費老人ホームも地域の受け皿のひとつとして相談して頂くことも多くなった。精神疾患を抱えて暮らすご本人の気持ちを知りたい。そんなことから学びはじめ数ヶ月、地域と病院でもともに過ごし精神保健福祉士の資格を取得した。

近年、地域包括ケア・地域共生社会という言葉が新聞やテレビ、雑誌などあちこちで見かけるようになった。2017年5月に「地域包括ケア強化法」が成立し、現在、地域包括ケアシステムは深化・推進の時期にある。地域包括ケアは高齢者福祉分野における支援のあり方を示すものと捉えられがちであるが、高齢者だけが暮らしやすい地域社会というものは存在しない。地域の中には、障害や疾患があったり、生活困窮に陥ったり、虐待被害を受けたり等、困難な生活課題を抱えながら孤立してしまうおそれがある人々が生活している。それらの人々を包摂し、地域の中で暮らす共生社会(インクルーシブな社会)が地域包括ケアの本当の目標である。

私は幼少の頃より、すぐ隣に福祉というものを感じ、またそれはごく自然なものであった。今思うと、大倭においては、ずいぶん前からインクルーシブな社会の姿がそこにあったように思う。私なりにではあるが、福祉というものに携わるなかで様々なものをみてきた。理想的な施策や待遇を考えてもなかなかその通りにいかない。そんな時、いち福祉人として何が高齢者にとって一番幸せなのか、というヒントを先人達の魂の入った記録から頂く。そしてその都度、身の引き締まる思いになる。ますます増える高齢者の幸せのため、少しでもお役に立てればと願う。そして、自分なりにではあるが先人達の想いを次の世代に伝えていければと思う。(平成30年6月19日記)

平成30年6月17日
第339回大倭会文化行事によせて
(上)

「八尾(やお・地名)と、 弓削(ゆげ・神社)」が気になった

杉本 順

この日、杉本さんは参加されませんでした(※報告記事は8頁参照)、法主さんの遺された記録を巡って書いてくれました。(編集部)

▼大阪府八尾市の地名の起こりについて

資料① 岩波書店『日本史年表』・歴史学研究会

編から

(587年) 用名天皇没後、蘇我馬子、皇后(のちの推古天皇)を奉じて、穴穂部皇子と宅部皇子を殺す。ついで泊瀬部皇子(のちの崇峻天皇)・厩戸皇子(聖徳太子)らとともに物部守屋を滅ぼす。

資料② 岩波書店『日本書紀 下』日本古典文学

体系から

(一五九頁) 「舍人迹見赤禰。迹見は姓なり。赤禰は名なり。赤禰、此を伊知毗と云ふ。」
(一六四頁) 「爰に迹見首赤禰有りて、大連(物部守屋)を枝の下に射墮して、大連併て其の子等を誅す。……田一萬頃を以て、迹見首赤禰に賜ふ。」

日聖法主の遺された記録から

昭和十六年四月二日

大倭神宮ニテ、御嶽坊神ハ春日皇子ニテ守屋ノ戦ノ時ハ太子ト共ニ働キシ者也ト

道麻呂祈願ノ時ハコノ神ハ非常ニ有名ナ所デ、

コノ時ハ丘高ク大石ガアツタ

推古天皇ハ神通力ノアツタ方ニシテ諸国ニ神社

ヲ御建立ニナツタ、何レモ御神託ニヨル

道麻呂、御祈願ハ自作ノ箭九本ヲ御神前ニ供ヘ御祈リサレタ所奇稲田姫命ハソノ中ノカブラ矢一本ヲ抜キ口ニ御クワヘニナリ、之ヲ射ヨト御手ニ持チテ御渡シニナツタ、コノ矢ガ守屋ヲ射タノデアル

コノ時太子御歳十六、道麻呂ハ太子ノ舍人

(別頁に) 道麻呂ハ鳥見谷ニ住ンデ居タ、聖徳

ヲ助ケレヨリ河内ニ住ム、

道麻呂ヲ聖徳太子ノ舍人ニ選ンダ人ハ、押坂彦

人大兄皇子、デアツタ

姓トシテハ別ニ無ク只、「箭作云々」ト云ツタ

道麻呂ハ中々弓ノ名人ニテ当代ノ第一人者デア

リ箭ヲイツモ背カラ離サナカッタノデ時ノ人ハ

「箭負」ト呼ブヤウニナツタ

④この道麻呂をもつて箭負・矢道家の一代。

日聖法主は矢道家五十代

フェイス出版『紫陽花色』現代宗教研究所から

(一五七頁) 法主 言い伝えによりますとね。

……蘇我氏と共に河内へ攻め入ったようです。

そのとき太子は十六歳ぐらいと聞いてます。三回も戦には敗けて、太子は大和へ逃げ帰ったんですね。私の先祖も太子と一しょに敗けて逃げた口です。策つきて道麻呂は、太子とともに、大倭の神に祈願をかけて、四度目の河内攻略にかかり、ついに成功したということです。

話というのは面白いもので、大倭の神前へ供えて祈願した九本の矢のうちの鎗矢が、守屋をねら

って道麻呂が放ったとき、大きなうなりを立て、

頭上で回って胸板を射ぬいたということです。大

倭へ参拝のとき、太子は神域にある古い藤に馬を

つなぐれたので「藤木」という地名のことは、さきほど話したとおりです。

登美の道麻呂が物部守屋を倒したので沢山な褒賞があったらしい。土地では河内全部を賜ったらしいので、居を今の八尾に移したようです。何処かははっきりしませんが、何でも矢作神社はうちの先祖が建てたとも聞いています。その付近かも知れません。

この神秘的な矢がその頃かなりうわざになったのですが、その矢を道麻呂が負っていたというのが箭負の道麻呂と世間から言われるようになり、これがまた住まう所の名ともなって、いまは八尾市となったというわけですね。

▼弓削氏と矢追氏の縁について

資料③ 山川出版社『日本史人物辞典』から

(弓削氏) 大化前代の弓削部の伴造の系譜を引く氏族。本拠は河内国若江郡弓削郷(現、大阪府八尾市)。六八四年(天武一三) 二月連から宿禰に改姓。略。

資料④ 『岩波講座 日本通史 古代3』から

(六三頁) 道鏡は河内国の豪族、弓削氏の出身で、長安玄奘三蔵から禅(ヨーガの瞑想修行)を学んで帰国した道昭の孫弟子にあたる。禅行にすぐれ、宮中の内道場にはいつて禅師になっていた。多くの看病禅師のなかから道鏡がえらばれたのは、山林修行によって身につけた並外れた呪験力にあつた。奈良時代の山林修行は、古来の神々への信仰とともに、密教(体系化される以前の「雑密」)とも深いかわりがあり、道鏡も葛城山で密教の如意輪法を修行し、宿曜秘法の呪法によって孝謙の病気を平癒させる。そしてそれを契機に、

孝謙は道鏡を寵愛するようになった。(続く)

寸 莎

第131回

川竹 四郎さん

アスファルトの下のグリ石

今回登場していただくのは、今年で89歳になり、まだまだお元気な川竹四郎さんである。毎年8月と12月に大倭紫陽花邑で行われる「掃除みそぎ」の際に、黙々と作業に打ち込む川竹さんの姿を覚えておられる方は多いと思う。過日、教務本庁の事務所でじっくりお話を伺った。

川竹さんは昭和4年3月18日に、大阪の茨木市を流れる安威川あゐがわの辺の安威の町で8人姉弟の末子として生まれた。父親は大工を家業としていた。この年に世界恐慌がはじまり、日本は軍国主義への道を踏み出しているような時代である。

子供時代、「家の隣に竹藪があり、肥後守ひごのまもりの小刀で竹細工を作る遊びに夢中で、いつも手を切って怪我をしていたが、自分が作った竹トンボは人の倍は飛んだ」と語る。後に仏像



を彫ることに才能は、この頃からすでに芽生えていたようだ。木登りも得意だったようで、「今でも負けない」と笑う。木登りの極意も教えてくれて、「まず登る時に枯れた枝を処理しておくことと、降りる時には足が地面につく最後の瞬間まで気を抜かないこと」だという。

この時代、「入学した商業学校でも陸軍将校による厳しい軍事訓練の教科があった」という。昭和19年に予科練よこけん海軍飛行予科練習生よこけんに受験して合格し、米子の美保海軍練習航空隊に配属される。「何かというときぐに下士官の鉄拳が飛んできたり、尻の皮がむけるほどポット漕ぎをさせられる」など過酷な訓練を受けた。昭和20年5月には、連合軍の圧倒的な戦力の前に敗色が濃くなり、所属の予科練は解散になる。その後、出雲空港の建設現場や長崎県川棚かわのたなの特攻基地に配属されるなど、各地を

転々とする。特攻基地では、「いつ死ぬかわからぬ兵隊たちが醸し出す雰囲気は地獄さながらだった」と当時をふり返る。

終戦後、竹籠作りや大工や市場の仲買人などの仕事に携わった後、昭和25年に大阪の凸版印刷の臨時職員として採用される。

大倭との縁は昭和40年頃のことだ、「ある新興宗教に入っていて、その教えに疑問を抱くようになっていた時に友達に誘われて法主さんと出会ったことがきっかけだった」という。「法主さんは下ネタの話しを例に出して陰陽の原理などを面白く説明してくれたりしたが、和やかなお方で、こちらの気持をホッとほぐしてくれる魅力があった」と懐かしそうに思い出す。

「生母さん（法主さんの母親）にはじめて会った時に、『あんたの首にへびが巻きついている』と言われてびっくりした」というエピソードも語ってくれた。「高槻たかのけの今城塚古墳で現れたへびに悪戯をしたことがあり、その後に激しい頭痛に悩まされていたので法主さんに相談したら、『ここに来てみるうちによくなっていくわ』とあっさり言われた」とのことである。

平成元年に現在の拝殿が建てられた際に、入口の戸の上にある「戸穗

加身恵美田芽かみえみきため・古代文字の「ナモタカマノハラ」の木彫と、「大倭大宮」の額の作成を法主様に託される。「どう作ったらいいのか本当に悩んだ」と当時の苦勞を語ってくれた。

仏像を彫るのが川竹さんの一番の趣味で、拝殿の完成後に、「どうしても持っていきたくなかったので二体の仏像を大倭に持っていったら、法主さんが、『まあ置いととき』と言ってくれた」のだという。そして、もう一体足りないと言われて持参すると、「法主さんは、『像には魂が入っているから、これからは作者といえども触れたらあかん』と釘を刺された」というのだ。そこで、「どういう気持でいけばいいのかと尋ねたところ、『これらの像がここに祀られたことに有頂天にならず、アスファルトの下にあるグリ石のように、目立たなくても人の役に立つような人であることだ』と法主さんに諭された」と力を込めて語る。

会社を退職してからは、シルバール材センターの仲介で、地元の八幡市の幼稚園や小・中学校の修理仕事や樹木の剪定など、持前の器用さを生かして手伝ってきた。

これからは、近所に住む一人娘の夫婦にも支えられながら、「手あたり次第に仏さんを彫っていきたい」とのこと。（聞き手 川岸田哲）

あじさい日記

6月9日 午後、交流の家でF IWC定例委員会。

6月15日 大倭神宮月次祭。

6月17日 八尾方面への文化行事。参加者11名が3人のボランテニアガイドと道鏡の出自である弓削氏一族の本拠地を歩きました。JR紀志駅を起点として東と西の弓削神社では、饒速日命や宇麻志麻治命という物部氏の先祖をお祀りしていました。称徳(孝謙)天皇が造営したという由義寺は『続日本紀』に記述があるだけで存在が謎だったが、平成28年発掘調査、国史跡に指定されたばかり。埋め戻されていたが発見された塔の基壇は七重の塔かというほど大規模だったそうです。ガイドさん紹介の食事処で昼食会。



東の弓削神社にて

秋の一泊旅行は、幹事の湯浅

芳郎さんによると鳥取方面に決定、野の花診療所の徳永進医師の講演をお願いできたので、それに合わせてコースを検討中のことです。(岸野春子記)

6月18日 朝、大阪府北部を震源とする地震、震度6弱。

6月19日 今、富山在住の齋藤正宏さんに、大倭出版局編集用パソコン2台のバージョンアップをお願いしました。22日まで大倭会館泊。

6月23日 大倭大本宮月次祭。

この日は昭和37年6月23日の法話をお聞きしました。平成18年6月号『おおやまと』に「天地自然に相通する心」として掲載分。大阪北部地震があったばかりで、「人間の精神状態と自然災害」という内容は、偶然とはいえあまりにタイミングぴったりでした。

この日、大倭会会員の中西千津江さん(前大倭会会長・中西正和さんの奥さん、88歳)が帰幽されました。ベルコ奈良駅前ホールにて仏式で24日通夜、25日告別式が行われました。大倭からも大勢が参列。

7月3日 大倭神宮齋庭に細石が補充されました。

7月5日 広島市の一ノ瀬厚さん、雪本清忠さんが来邑。

7月6日 大倭神宮月次祭。近畿・中国地方が大雨にみまわれる中、社務所での祭典でした。

この雨が、日を追うごとに西

日本豪雨というような大災害になりました。

夜7時から大倭会館において

邑倭の会が開かれました。

7月8日 祓会。半ば頃、藤本宏秋さんが現われたのにはびっくり。福知山や宮津、舞鶴など京都北部も今回の大雨で至るところ大きな被害が出ていて、仕事先の日本料理店も床上浸水。しかし危機一髪で水が引いて、掃除したあと臨時休業になったので来たとのことです。

大倭関係の皆さんから他に大きな被害の情報は今のところ耳に入りませんが案じられます。

あんない

*月次祭(大倭神宮)

8月6日(月) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭教立教開宣祭及び大倭神宮月次祭

8月15日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催第595回祓会
8月18日(土) 変則的になります。大倭大本宮境内の清掃神事として午前9時より。
なお大倭墓地清掃を午前8時から行います。

*月次祭(大本宮)

8月23日(木) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

*東光大祭及び祖霊祭
8月25日(土) 下欄に詳細。

大倭安宿苑では

(菅原園)

6月25日 青丹学園から女性1名が5日間実習され、皆喜んで話しをしていました。

(須加宮祭)

6月21日 10名が近隣公園の清掃で地域貢献をしました。

(長曾根祭)

6月13日(日) 菅浦が見頃の奈良県立民俗博物館へ外出会。

6月23日(特養) 喫茶倶楽部あじさいに18名の方が参加。
(茂毛路園)

6月13日 書道クラブ、「おほろ月夜」という字を書きました。

(八重垣園)

6月11日 今年梅酒でなく梅ジュース作り。5名が参加。

表紙写真によせて
ゲンノシヨウコは、服用後ただちに薬効(下痢止・健胃)が現われるという意味で漢字では「驗(現)の証拠」と書く。数十年前、私が紫陽花邑に来たばかりの頃には咲いているのを見たことがある。センブリ(千振)というのを見た。胃に良いと、こちらは法主さん始めみんなが常用していたので、すごく苦かったが私もよく飲んだ。(春)

東光大祭 祭典のご案内

平成30年8月25日(土曜日)・旧7月15日)

午前11時30分から、東方の碑で加美さまにご挨拶。

正午から、奥津斎庭において祖霊祭が行われます。

祖霊祭が終わる次第、拝殿に教長さんをお迎えして東光大祭が行われます。

祭典後、皆様各ご家庭の経木をお渡しします。

祖霊祭のあいだ拝殿では法主様の東光大祭のご法話や紫陽花邑の記録映像等を聞いたり見たりしていただきます。

【注意】 祖霊祭の経木への書き込み受付は

8月5日までとさせていただきます。